

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 2020年11月10日

【四半期会計期間】 第48期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 株式会社ニッソー  
(定款上の商号 株式会社 NITTOH)

【英訳名】 NITTOH CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中野英樹

【本店の所在の場所】 名古屋市中川区広川町三丁目1番地8

【電話番号】 052 - 304 - 8210 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 伊藤寿朗

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中川区広川町三丁目1番地8

【電話番号】 052 - 304 - 8210 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 伊藤寿朗

【縦覧に供する場所】 株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)  
株式会社ニッソー 東京西営業所  
(東京都町田市小山ヶ丘三丁目2番地16)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期 連結累計期間	第48期 第2四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	4,684,124	3,918,604	9,066,640
経常利益 (千円)	231,667	71,385	360,435
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	154,376	43,253	248,736
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	148,137	45,299	244,229
純資産額 (千円)	3,431,425	3,520,127	3,527,517
総資産額 (千円)	6,038,731	5,899,438	5,913,724
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	38.09	10.67	61.37
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	56.8	59.7	59.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	97,062	285	364,569
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	13,609	16,110	5,542
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	87,886	12,113	223,082
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,246,523	1,355,399	1,359,681

回次	第47期 第2四半期 連結会計期間	第48期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	23.00	12.57

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。  
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて14,286千円減少し、5,899,438千円となりました。主な増減は、たな卸資産の増加37,845千円があったものの、受取手形及び売掛金の減少46,710千円があったことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて6,895千円減少し、2,379,311千円となりました。主な増減は、短期借入金の増加100,000千円があったものの、支払手形及び買掛金の減少58,799千円、長期借入金の減少35,196千円があったことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて7,390千円減少し、3,520,127千円となりました。主にその他有価証券評価差額金の増加2,046千円があったものの、利益剰余金の減少9,436千円があったことによるものであります。

##### 経営成績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、さまざまな経済活動がその影響を受けて急速に悪化し、わずかに回復の兆しも見えてつありますが、依然として先行き不透明な厳しい状況となりました。また、海外においても、長期化する新型コロナウイルス感染症拡大の影響から景気減速が懸念されており、景気下振れリスク、政策動向による不確実性、金融市場の下振れリスクが、今後、さらにわが国へ与える影響も懸念されております。

当社グループの中心となっている住宅建築業界におきましては、政府による社会経済活動レベルの引き上げ、住宅取得促進に対する諸政策が実施されているものの、2019年10月の消費税増税以降、個人消費者の住宅に対する消費マインドが低下する厳しい状況下にあるなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、その厳しさに追い打ちをかける状況となりました。

このような経済状況のもとで、当社グループの建設工事業において、新築着工件数の減少による新築建設物向けの工事件数の減少、緊急事態宣言の発出に伴う営業活動の自粛、工事完成の延期、緊急事態宣言の解除後も感染予防対策の徹底による活動制限などのさまざまな要因により、業績確保は厳しい状況となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,918,604千円(前年同四半期比16.3%減)となり、営業利益は57,625千円(前年同四半期比74.2%減)、経常利益は71,385千円(前年同四半期比69.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は43,253千円(前年同四半期比72.0%減)となりました。

セグメントの経営成績を示すと、次のとおりであります。

#### (建設工事業)

建設工事業は、住宅の新築を含めた各種住宅リフォーム、集合住宅やマンションなどの中規模建設物の補修・修繕工事、中古マンション・中古戸建住宅のリノベーション再販、FRP防水・シート防水等の各種防水工事、ガス設備工事及び太陽光発電システム設置工事を中心としております。

緊急事態宣言の解除後は、延期されていた工事施工の再開、緊急性の高い修理・補修を必要とするリフォーム工事の受注などで業績確保に努めましたが、新築着工件数の減少による新築建設物向けの工事件数の減少、取引先からの緊急事態宣言の発出による新規商談・工事施工の自粛要請に伴う受注件数の減少により、業績確保は厳しい状況となりました。

以上の結果、建設工事業の売上高は2,539,080千円(前年同四半期比19.8%減)、営業利益24,678千円(前年同四半期比86.5%減)となりました。

#### (住宅等サービス事業)

住宅等サービス事業は、住宅の保護という観点から、特に床下環境の改善及びシロアリ対策を中心としております。緊急事態宣言の解除後も、新規のシロアリ対策の物件確保に努めましたが、取引先からの緊急事態宣言の発出による販売促進活動の自粛要請、自粛に伴う受注件数の減少により、業績確保は厳しい状況となりました。

以上の結果、住宅等サービス事業の売上高は583,030千円(前年同四半期比14.2%減)、営業利益は95,328千円(前年同四半期比22.8%減)となりました。

#### (ビルメンテナンス事業)

ビルメンテナンス事業は、首都圏のビルの窓及び外壁のクリーニング、マンション、公共施設などの清掃管理サービスを中心としております。清掃管理サービスは、新規管理案件の物件確保に努めましたが、取引先からの緊急事態宣言の発出による中止、延期に伴う件数の減少などにより、業績確保は厳しい状況となりました。

以上の結果、ビルメンテナンス事業の売上高は796,493千円(前年同四半期比5.0%減)、営業利益は48,931千円(前年同四半期比20.3%増)となりました。

(2) キャッシュ・フロー状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、4,282千円減少(前年同四半期は22,786千円の増加)し、当第2四半期連結会計期間末には1,355,399千円(前年同四半期は1,246,523千円)となりました。

当第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の減少は、285千円(前年同四半期は97,062千円の増加)となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益71,385千円に加えて、売上債権の減少による資金の増加46,710千円があったものの、仕入債務の減少による資金の減少58,799千円、たな卸資産の増加による資金の減少37,845千円、法人税等の支払額22,763千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、16,110千円(前年同四半期は13,609千円の増加)となりました。これは、主に定期預金の払戻による収入27,859千円があったものの、定期預金の預入による支出27,860千円、営業所拡充に伴う事務所建設費用など有形固定資産の取得による支出10,940千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の増加は、12,113千円(前年同四半期は87,886千円の減少)となりました。これは、主に短期借入金の純増額100,000千円があったものの、配当金の支払額52,690千円、長期借入金の返済による支出35,196千円があったことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,400,000
計	13,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,060,360	4,060,360	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は、100株で あります。
計	4,060,360	4,060,360		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年7月1日 ～2020年9月30日		4,060		186,072		145,813

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ナカノコーポレーション	名古屋市昭和区長池町四丁目15番地	1,080	26.64
堀 由紀子	名古屋市北区	520	12.82
奥田 清人	愛知県春日井市	240	5.92
NITTOH社員持株会	名古屋市中川区広川町三丁目1番地8	160	3.95
堀 裕紀	名古屋市東区	149	3.67
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	90	2.22
株式会社愛知銀行	名古屋市中区栄三丁目14番12号	82	2.02
内藤 征吾	東京都中央区	68	1.69
東邦瓦斯株式会社	名古屋市熱田区桜田町19番18号	60	1.48
住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社	大阪市中央区道修町2丁目2番8号	60	1.48
計	-	2,510	61.93

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,052,800	40,528	
単元未満株式	普通株式 360		
発行済株式総数	4,060,360		
総株主の議決権		40,528	

【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ニッター	名古屋市中川区広川町三 丁目1番地8	7,200		7,200	0.17
計		7,200		7,200	0.17

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,393,754	1,389,472
受取手形及び売掛金	1,050,247	1,003,536
たな卸資産	749,938	787,784
その他	70,900	79,818
貸倒引当金	3,483	2,870
流動資産合計	3,261,356	3,257,740
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	895,957	875,062
土地	1,337,709	1,337,709
その他(純額)	12,634	21,746
有形固定資産合計	2,246,300	2,234,517
無形固定資産		
その他	8,958	8,540
無形固定資産合計	8,958	8,540
投資その他の資産		
その他	397,508	399,000
貸倒引当金	400	360
投資その他の資産合計	397,108	398,640
固定資産合計	2,652,368	2,641,698
資産合計	5,913,724	5,899,438

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	722,810	664,010
短期借入金	310,000	410,000
1年内返済予定の長期借入金	70,392	70,392
未払法人税等	33,565	30,137
賞与引当金	104,750	104,488
完成工事補償引当金	31,400	33,900
その他	308,271	288,326
流動負債合計	1,581,188	1,601,255
固定負債		
長期借入金	259,216	224,020
退職給付に係る負債	388,886	392,798
長期未払金	9,840	9,840
その他	147,076	151,397
固定負債合計	805,019	778,056
負債合計	2,386,207	2,379,311
純資産の部		
株主資本		
資本金	186,072	186,072
資本剰余金	145,813	145,813
利益剰余金	3,162,922	3,153,485
自己株式	1,883	1,883
株主資本合計	3,492,923	3,483,487
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,593	36,640
その他の包括利益累計額合計	34,593	36,640
純資産合計	3,527,517	3,520,127
負債純資産合計	5,913,724	5,899,438

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	4,684,124	3,918,604
売上原価	3,442,182	2,906,975
売上総利益	1,241,942	1,011,628
販売費及び一般管理費	1,018,957	954,003
営業利益	222,984	57,625
営業外収益		
受取利息	14	9
受取配当金	836	727
受取手数料	2,078	1,800
受取保険金	1,725	1,492
受取賃貸料	5,728	12,554
その他	5,426	5,811
営業外収益合計	15,809	22,395
営業外費用		
支払利息	2,054	1,776
賃貸費用	4,787	5,761
その他	284	1,098
営業外費用合計	7,125	8,635
経常利益	231,667	71,385
特別利益		
固定資産売却益	405	-
特別利益合計	405	-
特別損失		
固定資産売却損	6,654	-
特別損失合計	6,654	-
税金等調整前四半期純利益	225,419	71,385
法人税、住民税及び事業税	60,515	27,698
法人税等調整額	10,526	433
法人税等合計	71,042	28,131
四半期純利益	154,376	43,253
親会社株主に帰属する四半期純利益	154,376	43,253

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
四半期純利益	154,376	43,253
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,238	2,046
その他の包括利益合計	6,238	2,046
四半期包括利益	148,137	45,299
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	148,137	45,299
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	225,419	71,385
減価償却費	22,795	22,898
賞与引当金の増減額(は減少)	7,007	261
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	3,700	2,500
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	5,294	3,912
貸倒引当金の増減額(は減少)	9	653
受取利息及び受取配当金	850	736
支払利息	2,054	1,776
有形固定資産売却損益(は益)	6,248	-
売上債権の増減額(は増加)	157,718	46,710
たな卸資産の増減額(は増加)	59,221	37,845
仕入債務の増減額(は減少)	99,942	58,799
その他	6,870	27,359
小計	161,532	23,527
利息及び配当金の受取額	850	736
利息の支払額	1,945	1,785
法人税等の支払額	63,374	22,763
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>97,062</b>	<b>285</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	27,859	27,860
定期預金の払戻による収入	27,859	27,859
有形固定資産の取得による支出	79,663	10,940
有形固定資産の売却による収入	98,373	-
貸付けによる支出	5,100	5,170
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>13,609</b>	<b>16,110</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	100,000
長期借入金の返済による支出	35,196	35,196
配当金の支払額	52,690	52,690
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>87,886</b>	<b>12,113</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	22,786	4,282
現金及び現金同等物の期首残高	1,223,736	1,359,681
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,246,523	1,355,399

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	
(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)	
当社グループは、固定資産の減損会計等の会計上の見積りについて、四半期連結財務諸表作成時点までに入手可能な情報に基づき、経済状況は緩やかに回復に向かうものの、業績への影響は一定期間続くものと仮定し、会計上の見積りを行っております。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う影響は不確実性が高く、今後の感染拡大の影響により、会計上の見積りに影響を与える可能性があります。	

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
販売用不動産	495,350千円	560,160千円
未成工事支出金	150,773千円	116,694千円
仕掛品	3,191千円	5,758千円
原材料及び貯蔵品	100,623千円	105,170千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給料及び手当	429,424千円	435,728千円
賞与引当金繰入額	90,383千円	86,635千円
退職給付費用	15,007千円	11,109千円
貸倒引当金繰入額	9千円	653千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	1,280,595千円	1,389,472千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	34,072千円	34,072千円
現金及び現金同等物	1,246,523千円	1,355,399千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月15日 定時株主総会	普通株式	52,690	13.00	2019年3月31日	2019年6月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月20日 定時株主総会	普通株式	52,690	13.00	2020年3月31日	2020年6月22日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設工事業	住宅等サ ビス事業	ビルメンテ ナンス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,166,175	679,804	838,144	4,684,124		4,684,124
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18,532	1,244	329	20,105	20,105	
計	3,184,707	681,049	838,473	4,704,229	20,105	4,684,124
セグメント利益	182,201	123,430	40,669	346,031	123,317	222,984

(注) 1. セグメント利益の調整額 123,317千円には、セグメント間取引消去14,761千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 138,078千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設工事業	住宅等サ ビス事業	ビルメンテ ナンス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,539,080	583,030	796,493	3,918,604		3,918,604
セグメント間の内部売上高 又は振替高			175	175	175	
計	2,539,080	583,030	796,668	3,918,779	175	3,918,604
セグメント利益	24,678	95,328	48,931	168,937	111,311	57,625

(注) 1. セグメント利益の調整額 111,311千円には、セグメント間取引消去14,372千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 125,684千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部等管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益	38円09銭	10円67銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	154,376	43,253
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	154,376	43,253
普通株式の期中平均株式数(株)	4,053,103	4,053,103

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月10日

株式会社 ニットー  
(商号 株式会社NITTOH)  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

名古屋事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浅井明紀子 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加納俊平 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニットー（商号 株式会社NITTOH）の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニットー（商号 株式会社NITTOH）及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 . 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。